

# 岩国市小中一貫教育ガイドライン

令和4年4月 岩国市教育委員会

今日、少子高齢化、情報化、国際化など、社会環境の急激な変化の中、教育をめぐっては、学力や不登校、いじめ、人材育成、地域連携など多くの課題が指摘されています。

また、子供たちの生活習慣や学習習慣の形成、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力の育成などが急務となっています。

これらの課題を克服し、子供たちの健やかな成長を図るためには、幼児期から小・中学校9年間を見通し、一貫した教育を推進するとともに、学校・家庭・地域が協働した「地域ぐるみの教育」を推進していくことが必要不可欠となっています。

岩国市教育委員会では、子供たちの「志高く 豊かな心と生き抜く力」の育成をめざし、義務教育9年間の連続した学びの中で、子供たちに確かな学力を身に付けさせるとともに、一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばすことができるよう、また、地域とともにある学校づくり・地域ぐるみで子どもを育む環境づくりに資するため、これまでに小中連携教育の取組を推進・充実させてきました。

そして、この取組をさらに発展させるため、令和2年度に、全ての小・中学校が、以下の基本方針をもって小中一貫教育をスタートしました。

## 【岩国市小中一貫教育において意識したい 5つの「つながり」】

<b>I</b> 小中一貫教育目標の設定 【目標をつなぐ】	<b>中学校区で、めざす子供像を共有し、子供たちの「豊かな心と生き抜く力」の育成を図る。</b> ○ 学校教育目標・重点目標の摺り合わせ ○ 学校評価項目の摺り合わせ 等
<b>II</b> 教育課程・指導形態の工夫・改善 【カリキュラムをつなぐ】	<b>教育課程（カリキュラム）の編成や指導形態などの工夫・改善を図り、「夢」「愛」「力」を育む教育を実践する。</b> ○ 「岩国市：ICTを活用した「新しい学習様式」」の実践 ○ 教員の授業交流、研修交流 ○ 小学校高学年における一部教科担任制の導入 等
<b>III</b> 教育活動の連続性の確保 【子供の心をつなぐ】	<b>子供たちの教育活動の連続性を高める。</b> ○ 小学生の中学校体験（授業・行事・部活動等） ○ 中学生から小学生への支援 ○ 小・中合同や小・小合同での行事や活動 等
<b>IV</b> 教職員間の連携、共通理解と共通実践 【教職員の意識をつなぐ】	<b>小中学校の教職員間の「連携」と「協働」を深める。</b> ○ 学力調査や確認問題の結果の共有と分析 ○ 小・中合同研修会や授業研究会の開催 ○ 9学年すべての児童・生徒への協同指導・支援 等
<b>V</b> 家庭・地域との連携・協働 【家庭・地域との絆をつなぐ】	<b>コミュニティ・スクール、地域協育ネットへの取組を深化・充実させる。（やまぐち型地域連携教育）</b> ○ 小・中合同でのPTA行事・地域行事の実施 ○ 小・中合同の学校運営協議会の開催（設置） 等

## 【岩国市小中一貫教育を進める手順 6つの「ポイント」】

上から順番に進めるのではなく、小中連携の状況と地域の実情に応じて、できることから一つずつ進めていくことが大切です。

I	<b>学校が主体となって小中一貫教育の推進組織をつくりましょう！</b>
	<ul style="list-style-type: none"><li>※ 各校に、小中一貫教育推進委員会の設置及び、小中一貫教育担当教員の任命が効果的です。</li><li>※ 学校運営協議会の組織(専門部会、プロジェクト部会)を活かすことができます。</li><li>※ コーディネーター(中学校区に一人)の任命が効果的です。</li></ul>
II	<b>中学校区のめざす子供像や重点目標を設定しましょう！</b>
	<ul style="list-style-type: none"><li>※ 小・中合同での知力・徳力・体力の実態把握と分析が必要です。</li><li>※ 学校評価など、各種評価やアンケート、学級アセスメントの結果を活用できます。</li><li>※ 合同学校運営協議会における熟議が効果的です。</li><li>※ 中学校区小中一貫教育構想図(グランドデザイン)を作成しましょう。</li></ul>
III	<b>教職員間の連携を強化する取組を進めましょう！</b>
	<ul style="list-style-type: none"><li>※ 小・中学校の教職員が、次の流れを意識することが大切です。 ① 学ぶ(必要性など) → ② 試す(小中連携の強化) → ③ 実行</li><li>※ 小・中学校の「互いのよさ」をたくさん見つけましょう。</li></ul>
IV	<b>児童・生徒間の効果的な交流活動を計画しましょう！</b>
	<ul style="list-style-type: none"><li>※ 「人間関係づくり」を進めましょう。</li><li>※ 「学校生活の見通し(9年間)」をもたせましょう。</li><li>※ 小・中学校教員によるティームティーチングなど、教職員の交流は、児童・生徒の「安心感」を生み、特に効果的です。</li></ul>
V	<b>9年間を見通した系統的なカリキュラムを編成しましょう！</b>
	<ul style="list-style-type: none"><li>※ 編成手順の一例を次に示します。 ① 「めざす子供像」の明確化 ② 「重点目標」の明確化 ③ 「重点目標」にかかる育てたい力の設定 ④ 「重点化を図る教科・領域」の設定 ⑤ 「授業改善の視点」をふまえた系統表・年間指導計画の作成 ⑥ 「9年間を見通したカリキュラム」の作成</li><li>※ カリキュラム編成後は、共通理解・共同実践に取り組むとともに、組織的かつ計画的に活動の質を向上させるために、カリキュラム・マネジメントの充実を図りましょう。</li><li>※ 中学校区で「特色のある、柱となる取組」を設定しましょう。 例 国語教育、英語教育、道徳教育、ICT教育、キャリア教育等</li></ul>
VI	<b>家庭・地域との連携を深めましょう！</b>
	<ul style="list-style-type: none"><li>※ コミュニティ・スクールの3つの機能(学校運営・学校支援・地域貢献)の充実・深化を図りましょう。</li><li>※ 中学校区内で、合同の学校運営協議会を開催しましょう。</li><li>※ 小・中学校、家庭、地域が「みんなで地域の子供を育てる」気運を醸成しましょう。</li><li>※ 校区内の幼稚園・保育園・高等学校との連携も図りましょう。</li></ul>